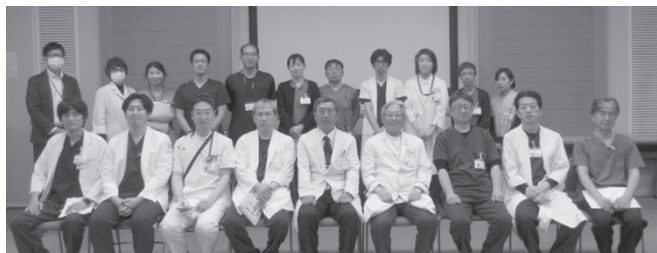


共同運営部門：がん治療センター

＜スタッフ紹介＞

スタッフの集合写真、所属部署および氏名を示す。



	部署	氏名
1	副病院長兼診療支援局長兼消化器外科主任部長 兼がん治療センター長兼がん相談支援センター長	種村 匡弘
2	泌尿器科 主任部長(副委員長)	射場 昭典
3	総合内科・感染症内科(肺腫瘍内科担当)部長	森山 あづさ
4	血液内科部長兼輸血・細胞治療センター長	釜江 剛
5	消化器内科部長	大西 亨
6	消化器内科(胆膵)部長兼内視鏡センター長	幡丸 景一
7	消化器外科(下部消化管)部長	三宅 正和
8	乳腺・内分泌外科部長	森島 宏隆
9	脳神経外科部長	出原 誠
10	呼吸器外科部長兼呼吸器センター長	土井 貴司
11	産婦人科副部長	古谷 毅一郎
12	耳鼻咽喉科・頭頸部外科医長	宝上 竜也
13	口腔外科部長	藤田 祐生
14	病理診断科部長	今北 正美
15	副看護局長兼急性期ケア推進室長	上野 智美
16	外来 看護師長	奥出 恵子
17	患者サポートセンター看護師(がん性疼痛看護認定看護師)	杉野 幸恵
18	8階海側病棟副看護師長(緩和ケア認定看護師)	樋口 紀美子
19	薬剤部門主幹	中川 直樹
20	薬剤部門主査	西井 拓人
21	栄養部門主査	林 美幸
22	放射線部門長代理兼放射線治療品質管理室長	田原 大世
23	臨床工学・技術部門長	荒川 昌洋
24	リハビリテーション部門主査(理学療法士)	栗山 泰典
25	ドクターサポートセンター主任	三浦 薫
26	医療マネジメント課診療情報管理係長	田中 貴士
27	がん相談支援センターMSW	下村 恭子
28	医療マネジメント課診療情報管理係	徳谷 さら乃
29	医療マネジメント課診療情報管理係(事務局)	坂田 祐美子

＜特色と概要＞

がん治療センターは消化器外科、消化器内科、放射線科、放射線治療科、血液内科、呼吸器外科、脳神経外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、口腔外科、泌尿器科、産婦人科、がん緩和医療チーム、診療支援局(薬剤部門、リハビリテーション部門、栄養部門)、看護局(がん性疼痛看護認定看護師)、事務局(医療マネジメント課)など多診療科・多職種から選出されたメンバーで構成され「**がん治療**」に特化した共同運営部門である(上表参照)。当センターでは様々な臓器のがん診療の現状を公開し、「**大阪府がん診療拠点病院**」として外科手術、放射線治療、化学・免疫療法を組み合わせたがん集学的治療の質の向上に努めている。



具体的な取り組みの一つとして、がん患者に最新・最適ながん治療を提供することを目的として『**キャンサーボード**』を毎月開催している(下表に担当診療科・参加人数の一覧を示す)。本ボードは治療に難渋している症例や、複数臓器にがんが見つかった症例、合併症があり標準的治療を提供することが困難と考えられる症例など多岐にわたる治療困難症例について、適切な治療法(手術、内視鏡治療、抗がん剤治療、放射線治療など)を多角的に検討する会議として位置付けており、診療科の垣根を超えて各臓器の専門医師、看護師を含めたコメディカルスタッフなど多職種専門家が一堂に会した検討会である。それぞれの知識を持ちより意見交換することで、がん患者の病態に応じた最善の治療の選択・提供を目指している。

また、がんに伴う疼痛、倦怠感、食欲低下、吐き気、息苦しさなどを含め身体的・精神的苦痛を和らげることを目的として『**がん緩和ケアチーム**』を設置している。チーム活動の一つとして在宅医療への移行などに伴う地域医療施設との連携、がん患者・家族に対する意思決定支援業務も担っている。特に、がんと診断された時点で本チームが介入することに予後が改善するとのデータをもとに、緩和ケアチームの早期介入を心がけている(具体的な活動内容、件数については緩和ケアチームの年報報告を参照ください)。

がん治療検討委員会主催 2025年度 キャンサーボード開催一覧表		
開催日	担当診療科	参加人数
4月17日	産婦人科	32名
5月8日	消化器外科	23名
6月19日	乳腺・内分泌外科	16名
7月10日	血液内科	18名
10月16日	口腔外科	22名
11月13日	脳神経外科	16名
1月8日	消化器内科	18名
2月19日	泌尿器科	15名
3月12日	呼吸器外科	17名

また、がん緩和ケア外来も開設し、がん治療の初期段階から治療でお悩みの患者の対応も行っている。2016年度からがん性疼痛看護認定看護師さらに、緩和ケア認定看護師が連日、がん患者の訴えや疑問点等に相談・対応している。がん認定看護師は医師の病状説明や治療方針の説明に立ち会い、患者の治療への理解を深めるようサポートしている。



7大がん(胃がん、大腸がん、肝がん、乳がん、肺がん、膵がん、前立腺がん)を含む全国がん登録事業および院内がん登録も当センターが担っている。また、当院のがん

患者同士の交流の場として『がんサロン』の開催を予定している。

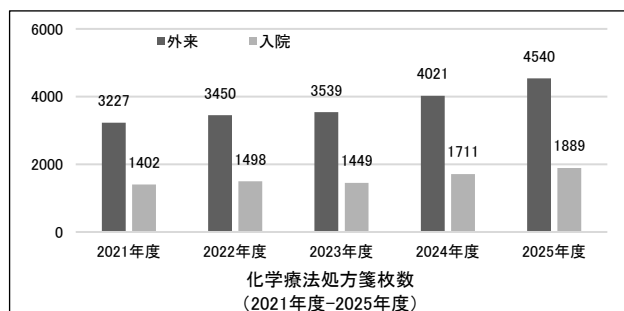
2025年4月に外来化学療法室の施設改修を行い、10床から14床へと運用を拡大した。これにより、がん患者の外来での化学療法実施を強力に推進し、2025年度の外来化学療法件数は大幅に増加した(上表参照)。今後も患者のQOLを維持し、『働きながらのがん治療』を支援する体制を強化していく方針である。

近年、がん免疫療法、特に免疫チェックポイント阻害剤を応用したレジメンが多く導入されている。それに伴い免疫関連有害事象(irAE)の発症が増加しており、迅速かつ的確な対応が求められる切迫したirAE症例も散見される。当センターでは『irAE対策チーム』をいち早く編成し、主治医の専門領域外の免疫関連有害事象に対し臓器横断的に対応できる体制を構築している。

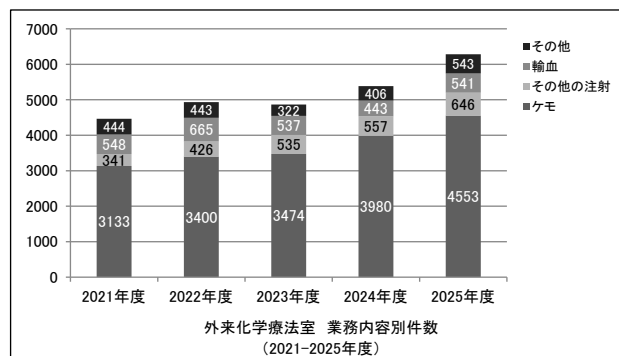
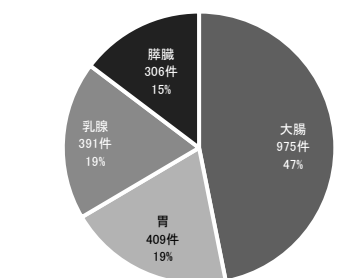
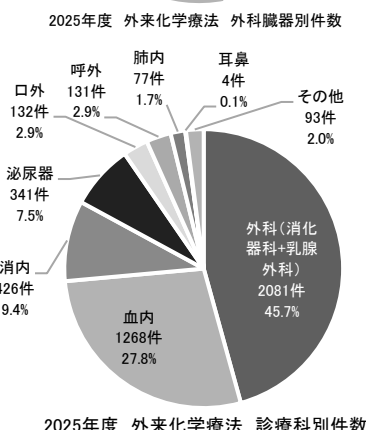
日本人の急速な高齢化に伴い、がん患者の高齢化も一層加速している現状がある。この現状を受け当院でも高齢がん患者の手術を多数実施している。高齢のがん患者の増加に対応し、看護師、リハビリテーション技師、管理栄養士、歯科衛生士らによる多職種連携介入を徹底した。特に術前・術後早期からのリハビリ、口腔ケア、栄養指導により、**食道がん術後の肺炎発症ゼロを継続**し、早期離床による褥瘡発生率の低下、および**術後在院期間の短縮**に成功した。

さらに周術期口腔ケアの一環として、当院に隣接する薬局には口腔ケア専用の洗浄液や洗浄用ゲルの販売を新たに開始し、患者自身でも口腔ケアを進められるよう整備している。また、がん手術の術後および抗がん剤投与などに伴う食欲不振などに対し管理栄養士が対面で栄養指導を積極的に行っている。当院のがん診療は医師、看護師だけでなく薬剤師、管理栄養士、リハビリテーション技師など多職種連携によるチーム医療でがん患者を中心とした360度がん診療を展開している。今後は院内整備をさらに進め『**国指定がん診療連携拠点病院**』の取得を目標とする。

＜実績＞



外来・入院での抗がん剤治療の実施状況などの診療実績を下記に示す。



＜今年度の成果と来年度への抱負＞

2023年2月よりカンサーボードを毎月開催するように変更した。2023年7月より当院および泉佐野泉南医師会との共催で『南大阪がん治療フォーラム』を開催し、2025年7月にも第3回がんフォーラムを開催、100名を超える参加者があり盛会であった。今後も地域の医師、薬剤師など交流を深め、がん治療についての最新の知見を提供する機会を設け地域医療連携を推進していく。

2025年度は外来化学療法の拡充と多職種連携チーム医療の深化において大きな成果を上げた。2026年度(令和8年度)は、放射線療法のさらなる充実を図り、外科手術、化学療法と合わせた『がん集学的治療』の体制を一層強化する方針である。これにより、患者本位の質の高いがん治療を提供し、『**国指定がん診療連携拠点病院**』の取得に向けた院内整備を加速させる所存である。